



2024年3月期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 森 拓也

2024年5月28日





2024年1月1日に発生しました「令和6年能登半島地震」で亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

当社グループとして、最大限の支援を行ってまいりますとともに、一日も早い被災地の復旧を心より祈念いたします。

株式会社ピーエス三菱



目次

1. 2024年3月期 決算概要	P. 4
2. 2025年3月期 業績予想	P. 14
3. 中期経営計画2022の進捗	P. 18
Appendix ご参考	P. 28



1. 2024年3月期 決算概要



2024年3月期 トピックス

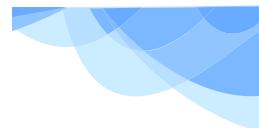
建設投資全体としては名目値・実質値ベースともに前年度比で微増

- 2024年度建設投資額は、前年度比2.8%増の74兆3,500億円と予測
 - 政府建設投資額は、前年度比1.5%増の23兆6,400億円と予測
 - 民間建設投資額のうち民間住宅投資額は、前年比1.6%増の17兆3,200億円、非住宅投資額は、前年度比1.2%増の19兆1,300億円と予測

出典：「建設経済モデルによる建設投資の見通し」
(一財) 建設経済研究所4月発行

売上高、各利益項目とも前期より大幅に改善

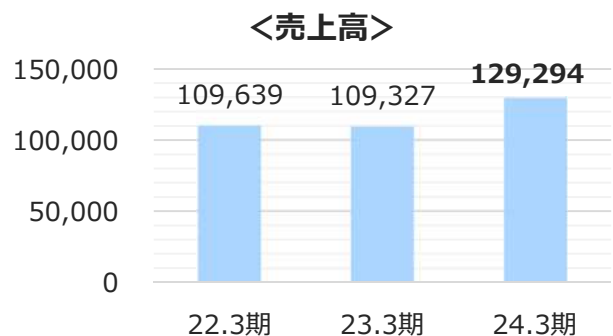
- 売上高は、土木、建築事業とも、前期からの繰越高も多く、工事の順調な進捗や設計変更の獲得により、前期から大幅増収
 - 全体で前年度比18.3%の増収、土木事業は11.7%、建築事業は32.5%の増収
- 売上総利益は、土木事業は設計変更獲得、土木及び建築事業ともに原価改善等により利益増加
 - 前年度比21.0%増益 利益率は前年度14.2%から14.5%、0.3ポイント上昇
- 各利益項目は、前年度比で大きく改善し、当期純利益が50億54百万円となる
 - 前年度比増加率：営業利益+37.0%、経常利益+37.6%、当期純利益+33.4%



業績サマリー

連結業績サマリー

(単位：百万円、%)	22.3期		23.3期		24.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	
売上高	109,639	△6.5	109,327	△0.3	129,294	18.3	土木、建築とも手持高多く、前年比増収
売上総利益	15,766	△10.6	15,527	△1.5	18,787	21.0	設計変更獲得、原価改善により土木、建築とも前年比増益
営業利益	6,618	△21.2	5,715	△13.6	7,827	37.0	販管費増であったが、売上総利益増により、前期比増益
経常利益	6,647	△21.1	5,629	△15.3	7,743	37.6	
親会社株主に帰属する当期純利益	4,539	△18.8	3,790	△16.5	5,054	33.4	
1株当たり年間配当金（円）	30.0		33.0		44.0		1株当たり中間配当17円、期末配当27円、合計44円

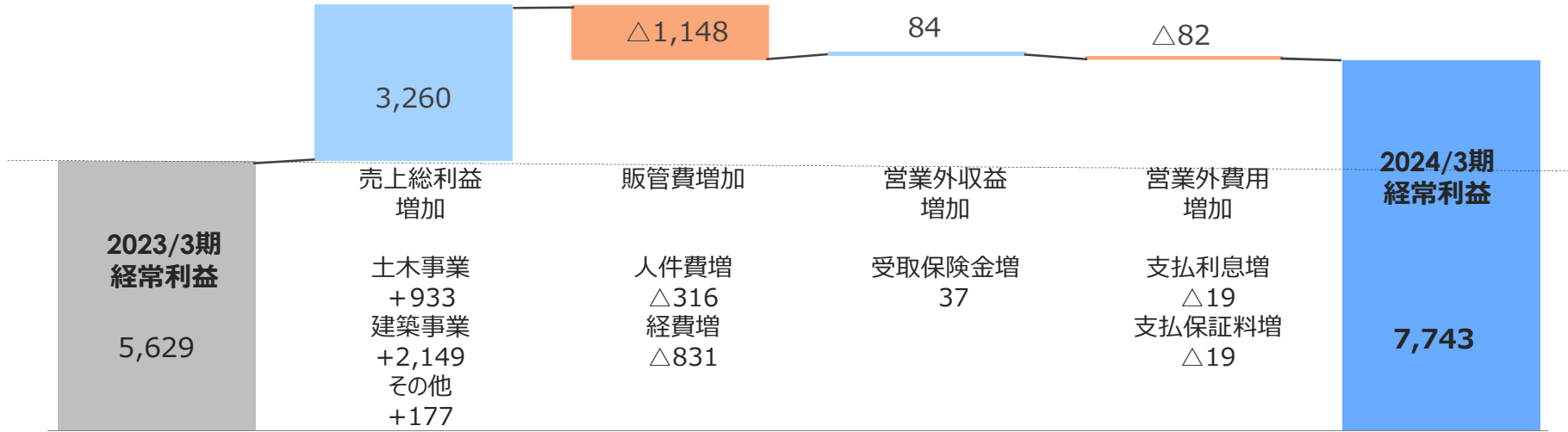




利益増減分析（前年同期比）

経常利益増減分析

（単位：百万円）



- 売上総利益は、設計変更獲得及び原価改善等により前期比32億60百万円増加し、利益率も14.2%から14.5%に0.3ポイント増加
 - 土木事業は、大規模更新・修繕工事での設計変更獲得、原価改善等により前期から9億33百万円の増益、利益率は17.1%となる
 - 建築事業は、手持工事の進捗も順調に進み売上増加、利益は前期比21億49百万円の増益、利益率は7.5%から10.0%に大幅改善
- 販管費は、前期比11億48百万円増加
 - 従業員の処遇改善等の実施により人件費が増加、大成建設子会社に伴うFA費用もあり支出増
- 営業外収益が84百万円増加
 - 受取保険金が増加
- 営業外費用が82百万円増加
 - 借入金増加による支払利息の増加、支払保証料の増加



セグメント別業績

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)		22.3期	23.3期	24.3期		コメント
		実績	実績	実績	前年比	
売上高	土木事業	67,550	70,247	78,451	11.7	・土木、建築事業とも繰越高増、手持工事の順調な進捗により前期比増収
	建築事業	40,160	36,536	48,414	32.5	
	製造事業	1,374	1,901	1,698	△10.7	
	その他兼業事業	554	641	730	13.8	
	合計	109,639	109,327	129,294	18.3	
売上総利益	土木事業	11,856	12,512	13,445	7.5	・土木事業は、大規模更新・修繕事業での設計変更獲得等による増益 ・建築事業は売上高の増収もあり、大幅増益
	建築事業	3,635	2,723	4,872	78.9	
	製造事業	73	23	142	511.6	
	その他兼業事業	200	268	326	21.9	
	合計	15,766	15,527	18,787	21.0	
受注高	土木事業	77,799	95,321	82,234	△13.7	
	建築事業	32,859	52,757	48,233	△8.6	
	製造事業	1,374	1,901	1,698	△10.7	
	その他兼業事業	554	640	730	14.0	
	合計	112,588	150,621	132,896	△11.8	

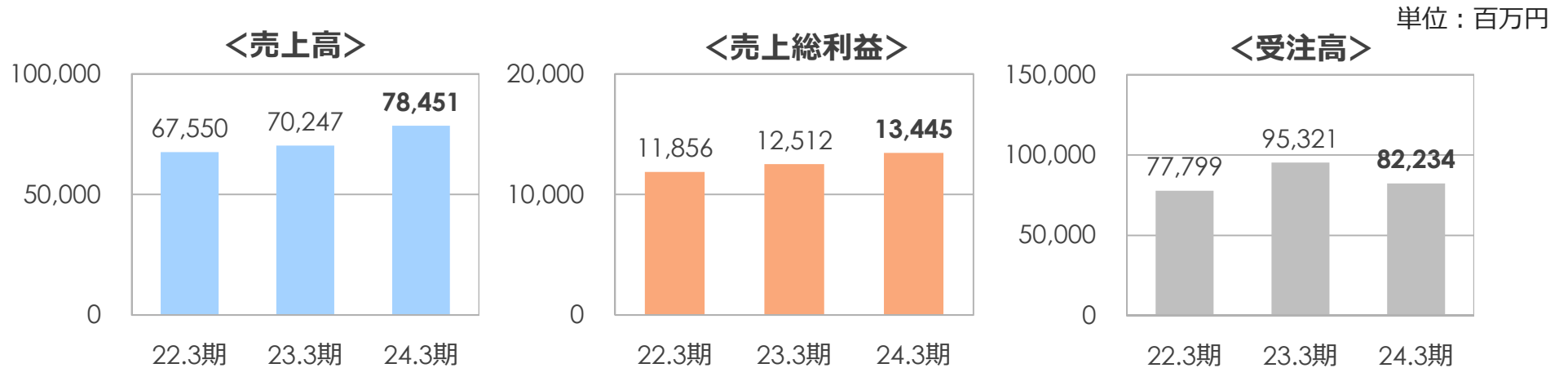


土木事業

業界環境

- 事業の柱となっているNEXCOの大規模更新・修繕事業は、若干のペースダウンはあったものの引き続き高い水準での発注が見込まれる
- 今年度より適用される時間外労働の上限規制への対応として、現場業務の外注化やICT等の活用による効率化を推進

業績推移



- 豊富な手持工事の順調な進捗や大規模更新・修繕事業の設計変更獲得等により、売上高、売上総利益ともに前期比増加
- 受注高は前期比減とはなりましたが、大規模更新継続契約案件及び新名神4車線化工事の受注等により、売上高以上の受注を確保

大型受注案件（受注金額上位3件）

工事名	工事概要
金沢高架橋東上り線床版取替その3	床版取替 約6千㎡、塗替塗装 約17千㎡、支承取替 79基
桑の丸橋（上り線）他2橋床版取替	床版取替:約6千㎡
杉谷川橋（下り線）建設工事その1	拡幅工事に係る仮設物等の設置工事

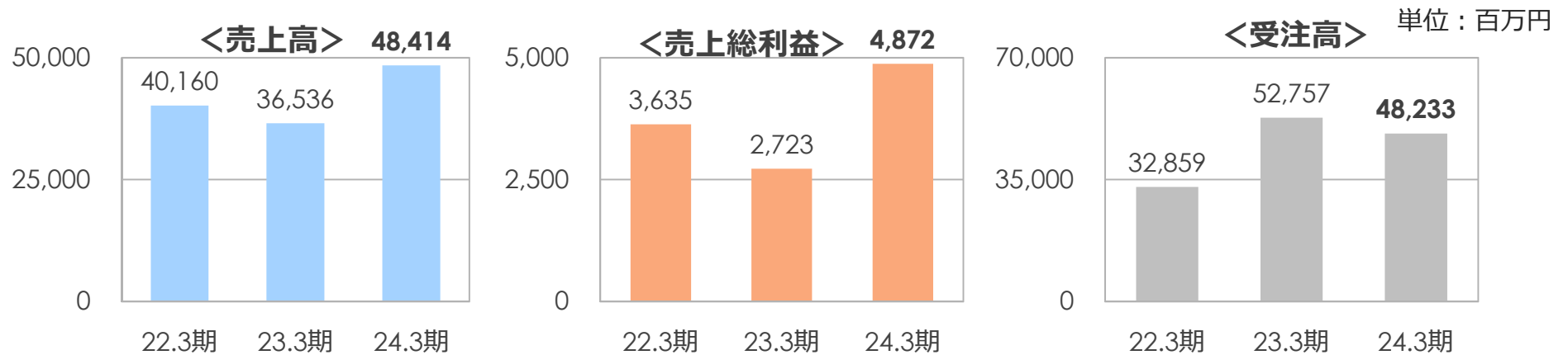


建築事業

業界環境

- 事業環境全体としては、企業の設備投資意欲は堅調に推移している
- 全国的な技能労働者不足や時間外労働の上限規制を背景に、当社が得意とした省人化が期待できるPCa（プレキャスト）建築への需要が見込まれる
- 当社グループの工場や全国各拠点にPCa部材製造協力工場があるネットワークを持つ強みを活かして、さらなる取り組み強化を行っていく

業績推移



- 前期からの繰越案件も多く、工事の進捗が順調に推移し、売上高、売上総利益ともに前期比大幅増
- 受注については、引き続き厳しい競争環境の中、前期比減ではあるが共同住宅や病院等を受注獲得

大型受注案件（受注金額上位3件）

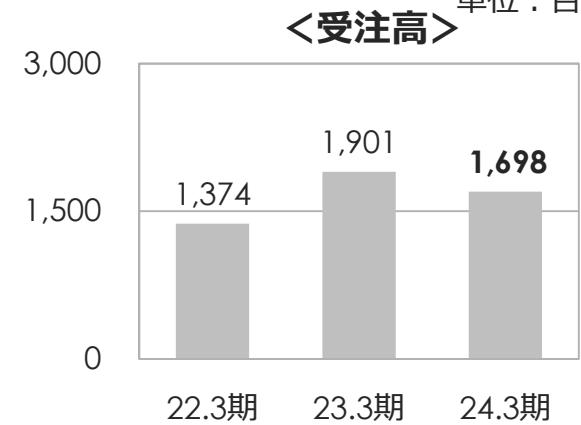
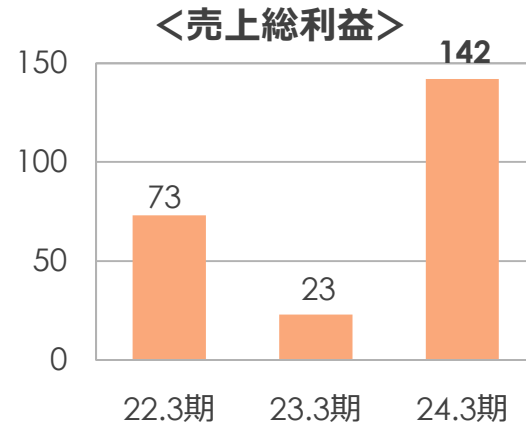
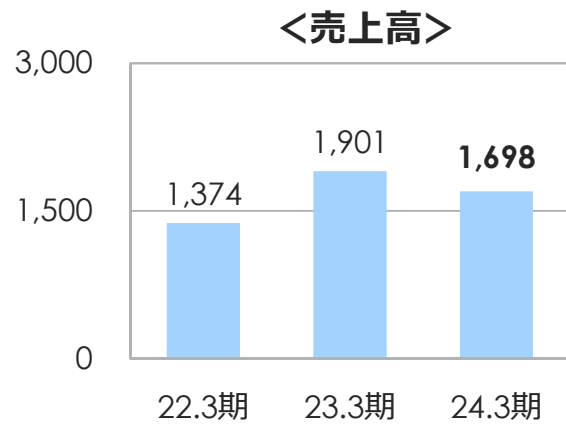
工事名	工事概要	建築面積	延床面積
某共同住宅新築工事	共同住宅・店舗 RC造20階建	1,099.77㎡	13,781.91㎡
某医療福祉施設新築工事	福祉医療施設 S造7階建	2,042.79㎡	13,532.81㎡
某共同住宅新築工事	共同住宅 RC造 A棟8階建・B棟9階建	1,043.91㎡	5,517.90㎡



製造事業及びその他兼業事業

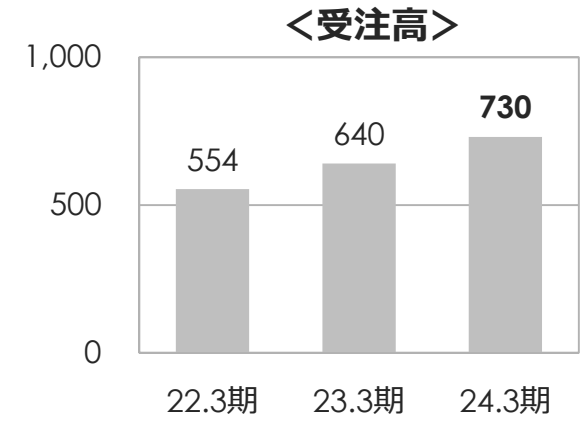
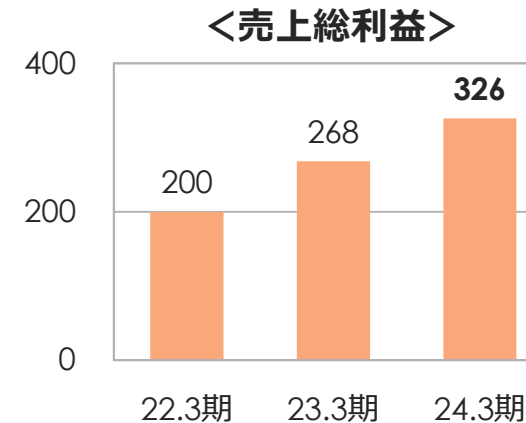
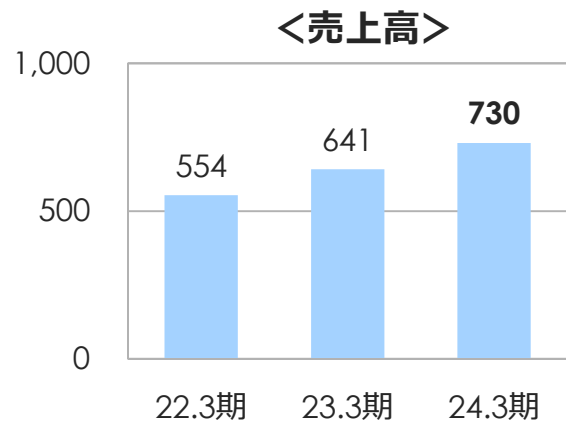
製造事業 - 業績推移

単位：百万円



その他兼業事業 - 業績推移

単位：百万円

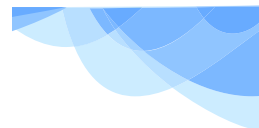




貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)	22.3期	23.3期	24.3期		備考
	①実績	②実績	③実績	増減 (③-②)	
資産合計	93,100	116,082	122,118	6,035	
流動資産	70,746	91,643	95,503	3,859	・工事進捗により、受取手形・完成工事未収入金及び契約資産が16億円増加
現金預金	9,947	9,347	11,163	1,815	
受取手形・完成工事未収入金及び契約資産等	53,082	74,222	75,832	1,609	
固定資産	22,354	24,438	26,614	2,176	・札幌高齢者施設、技術研究所ZEB化、事務所移転などにより有形固定資産が3億円増加 ・投資有価証券の評価益により、投資その他の資産が17億円増加
有形固定資産	14,929	16,294	16,642	348	
無形固定資産	119	99	188	89	
投資その他の資産	7,305	8,044	9,783	1,738	
負債合計	47,567	68,210	69,947	1,737	
流動負債	37,369	58,118	54,293	△3,824	・売掛債権の回収促進により、短期借入金は152億円の減少 ・短期借入金からの組替により、長期借入金は56億円増加
短期借入金	6,008	25,893	10,818	△15,075	
1年内返済予定の長期借入金	-	600	360	△240	
固定負債	10,197	10,091	15,653	5,562	
長期借入金	4,000	3,400	9,060	5,660	
純資産合計	45,533	47,872	52,170	4,298	・当期純利益50億円を計上、配当金を23億円支出
株主資本	42,938	45,096	47,974	2,878	
その他包括利益累計額	2,594	2,775	4,195	1,419	
負債純資産合計	93,100	116,082	122,118	6,035	



キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)	22.3期	23.3期	24.3期	備考
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,599	△16,708	15,944	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権・契約資産の回収による減少 ・仕入れ債務の増加 ・営業CFは黒字化
税金等調整前当期純利益	6,640	5,609	7,595	
減価償却費	794	1,012	1,112	
退職給付に係る資産の増減	△182	△57	△928	
退職給付に係る負債の増減	105	203	6	
工事損失引当金増減	△108	40	410	
売上債権及び契約資産の増減（△は増加）	353	△20,899	△1,777	
たな卸資産の増減（△は増加）	1,139	99	69	
仕入債務の増減（△は減少）	△662	△97	5,143	
契約負債の増減	△1,385	△352	3,678	
その他営業活動フロー	△417	△658	2,214	
法人税等支払額	△3,596	△1,406	△1,877	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,150	△1,956	△1,918	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌高齢者施設の完工、工場設備の更新等による固定資産の取得
有形固定資産取得	△1,285	△1,605	△2,001	
その他投資活動フロー	134	△350	83	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,970	18,060	△12,219	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の減少 ・短期から長期借入金への組替 ・配当金の支払
短期借入金純増減	△621	19,885	△15,082	
リース債務返済による支出	△84	△144	△140	
長期借入による収入	-	-	5,660	
自己株式の取得による支出	△0	△235	△0	
配当金支払額	△1,234	△1,421	△2,369	
その他財務活動フロー	△29	△22	△286	
現金及び現金同等物期末残高	9,947	9,347	11,163	



2. 2025年3月期 業績予想

各セグメントの外部環境と今後の見通し

土木事業

- 2024年度の公共事業関係費は、ほぼ前年並みと見込む。特に、事業の柱となっているNEXCOの大規模更新・修繕事業は、若干のペースダウンはあるものの引き続き高い水準での発注が継続されると予測
- NEXCO3社・本四・首都高・阪高における大規模更新修繕の総事業費は、約5.5兆円で契約率は約48%。また、新たに更新が必要とされる事業費が約1.5兆円。その内、NEXCOの橋梁に関しては約0.7兆円で、主な対策は「床版取替、桁の架替、グラウト再注入」
- 高速道路の暫定2車線区間の4車線化を順次事業化しており、今年度は約57kmを事業化（約3,560億円）



（阪和自動車道）土丸橋PC上部工補修工事
本工事ではグラウトの再注入工法「リパッシュ工法」を採用



（中国自動車道）大谷橋床版取替工事
本工事では、当社独自工法の半断面床版取替工法、MuSSL工法が採用

建築事業

- 民間設備投資は、半導体関連工場やEV関連工場の誘致政策の効果もあり比較的好調に推移
- 倉庫・流通施設は、倉庫スペースの拡張や物流網の増強といった需要に支えられ高水準で推移しているが、エリアによっては供給過多となり頭打ちと見込まれる
- 全国的な技能労働者不足や時間外労働の上限規制を背景に、当社が得意とし技能労働者削減が期待できるPCa建築への需要を見込む
- カーボンニュートラル実現に向けた「フロー型」から「ストック型」重視の潮流により、今後リニューアル工事の需要は高まると予想

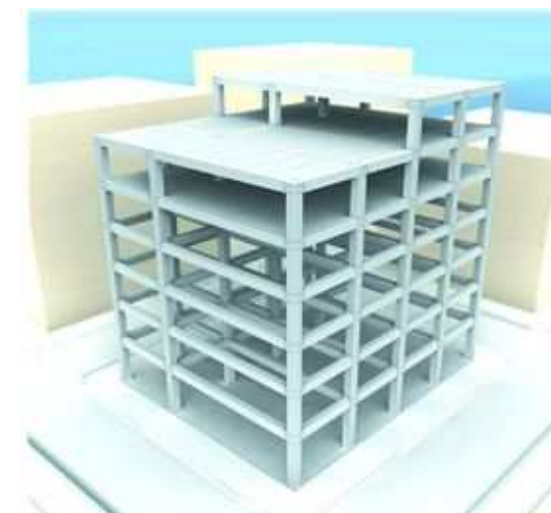
PCa（プレキャストコンクリート）工法とは

コンクリート部材を工場で作成して、建設現場へ運搬し、躯体を構築する工法です。作業の規格化により省力化、効率化に適しています。また、建築時の廃棄物や余剰材料を最小限に抑えることができ、在来工法と比べて騒音・粉塵も少なく抑えられるため、周辺環境に配慮した工法です。

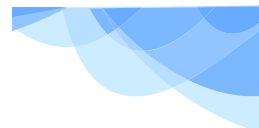
PC（プレストレストコンクリート）とは

圧縮に強く引張には弱いコンクリートに、PC鋼材（高強度鋼材）によりあらかじめ圧縮力を与え、コンクリートの弱点を大幅に改善する構造です。大空間・大スパン化、大荷重積載、ノンクラックと高品質な建物を実現します。

PCaPC工法とはPCa工法とPCを組み合わせた工法で、環境負荷の少ない、高品質な大空間建築を実現します。



PCaPC構造のイメージ図

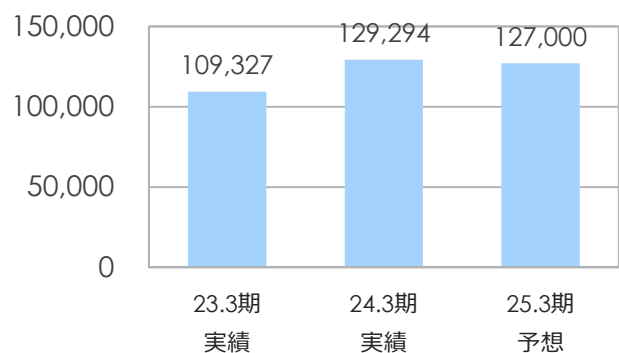


業績予想

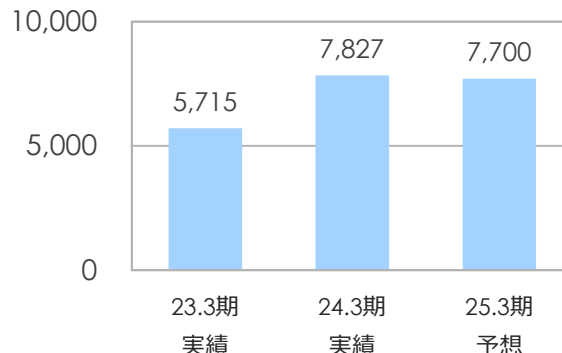
連結業績予想

(単位：百万円、%)	23.3期		24.3期		25.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	109,327	△0.3	129,294	18.3	127,000	△1.8	土木、建築事業とも繰越工事も多く、前年並み
売上総利益	15,527	△1.5	18,787	21.0	18,090	△3.7	土木事業は前年並み、建築事業は減益予想
営業利益	5,715	△13.6	7,827	37.0	7,700	△1.6	営業利益、経常利益、当期純利益は前年並み
経常利益	5,629	△15.3	7,743	37.6	7,600	△1.9	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,790	△16.5	5,054	33.4	5,000	△1.1	
1株当たり年間配当金（円）	33.0		44.0		44.0		配当性向40%以上を予定

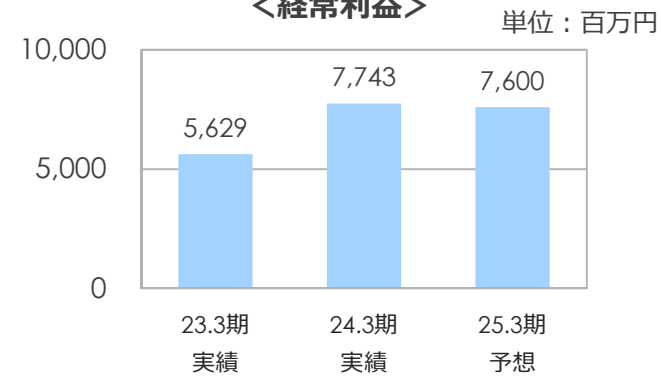
<売上高>



<営業利益>



<経常利益>





セグメント別業績予想

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

	(単位：百万円、%)	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期		コメント
		実績	実績	実績	予想	前年比	
売上高	土木事業	67,550	70,247	78,451	76,700	△2.2	<ul style="list-style-type: none"> 土木事業は、繰越工事高の増加、手持工事の順調な進捗を見込むも微減 建築事業は、前年並みを見込む
	建築事業	40,160	36,536	48,414	48,300	△0.2	
	製造事業	1,374	1,901	1,698	900	△47.0	
	その他兼業事業	554	641	730	1,100	50.6	
	合計	109,639	109,327	129,294	127,000	△1.8	
売上総利益	土木事業	11,856	12,512	13,445	13,400	△0.3	<ul style="list-style-type: none"> 土木事業は、設計変更などを織り込み、ほぼ前年並みを見込む 建築事業は、繰越工事の一部低採算案件もあり減益見込み
	建築事業	3,635	2,723	4,872	4,300	△11.8	
	製造事業	73	23	142	90	△36.7	
	その他兼業事業	200	268	326	300	△8.2	
	合計	15,766	15,527	18,787	18,090	△3.7	
受注高	土木事業	77,799	95,321	82,234	76,000	△7.6	<ul style="list-style-type: none"> 土木事業は手持ち工事も多く、今年度より適用される残業時間上限規制も考慮し、利益重視の選別受注を予定 建築事業は、競争環境は比較的好転してきているが、土木同様、手持ち工事が多い状況であり、若干減少見込み
	建築事業	32,859	52,757	48,233	45,000	△6.7	
	製造事業	1,374	1,901	1,698	900	△47.0	
	その他兼業事業	554	640	730	1,100	50.6	
	合計	112,588	150,621	132,896	123,000	△7.4	



3. 中期経営計画2022の進捗



中期経営計画2022の進捗

2024.3期業績実績と中計数値目標との対比

(単位：百万円)		24.3期実績		24.3期中計目標		24.3期と中計目標との差額	コメント
受注	土木事業	82,234		72,400		9,834	土木、建築とも中計目標を大幅に上回る 土木においては、大規模更新・修繕工事、 新設橋梁工事などの大型案件を獲得 建築においても、大型の共同住宅や病院な どの受注獲得
	建築事業	48,233		43,000		5,233	
	製造事業	1,698		1,700		△1	
	兼業事業	730		900		△169	
	合計	132,896		118,000		14,896	
売上高	土木事業	78,451		69,400		9,051	潤沢な手持ち工事を持ち、工事進捗も順調 に推移し、中計目標を上回る
	建築事業	48,414		42,000		6,414	
	製造事業	1,698		1,700		△1	
	兼業事業	730		900		△169	
	合計	129,294		114,000		15,294	
売上利益	土木事業	17.1%	13,445	16.7%	11,600	1,845	増収と設計変更獲得、原価改善により増 益、利益率も0.6ポイント改善
	建築事業	10.0%	4,872	9.0%	3,800	1,072	
	製造事業	8.4%	142	11.8%	200	△57	
	兼業事業	44.8%	326	33.3%	300	26	
	合計	14.5%	18,787	13.9%	15,900	2,887	
販売費及び一般管理費		8.5%	10,959	8.8%	10,000	959	FA費用や人件費増による
営業利益		6.1%	7,827	5.2%	5,900	1,927	売上総利益の拡大により、中計目標を上 回る
経常利益		6.0%	7,743	5.4%	6,100	1,643	
当期純利益		3.9%	5,054	3.6%	4,100	954	



中期経営計画2022の進捗

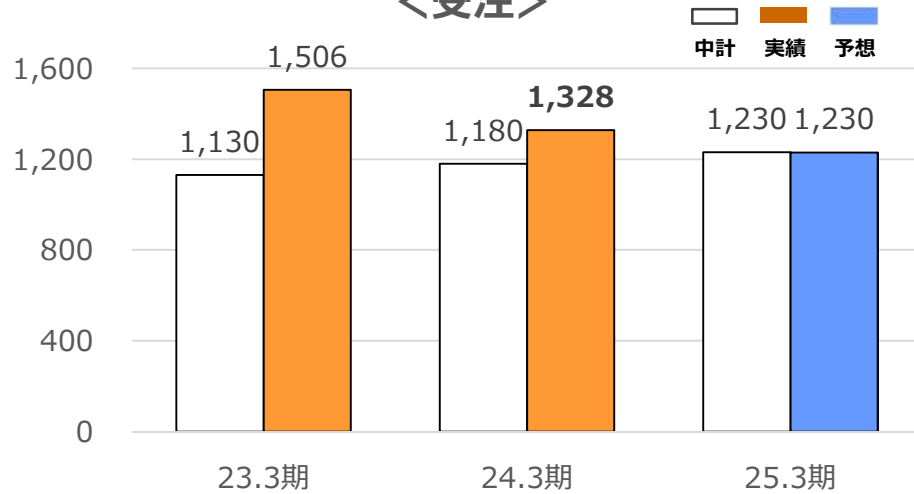
2025.3期業績予想と中計数値目標との対比

(単位：百万円)		25.3期 予想		25.3期 中計目標		25.3期と中計目標 との差額	コメント
受注	土木事業	76,000		75,100		900	
	建築事業	45,000		45,000			
	製造事業	900		1,800		△900	
	兼業事業	1,100		1,100			
	合計	123,000		123,000			
売上高	土木事業	76,700		73,100		3,600	
	建築事業	48,300		45,000		3,300	
	製造事業	900		1,800		△900	
	兼業事業	1,100		1,100			
	合計	127,000		121,000		6,000	繰越工事も多く、増収予想
売上 利益	土木事業	17.5%	13,400	17.1%	12,500	900	増収と利益率改善を想定
	建築事業	8.9%	4,300	10.0%	4,500	△200	低採算物件もあり保守的に見込む
	製造事業	10.0%	90	11.1%	200	△110	
	兼業事業	27.3%	300	27.3%	300		
	合計	14.2%	18,090	14.5%	17,500	590	
販売費及び一般管理費	8.2%	10,390	8.4%	10,200	150		
営業利益	6.1%	7,700	6.0%	7,300	400		
経常利益	6.0%	7,600	6.1%	7,400	200		
当期純利益	3.9%	5,000	4.0%	4,900	100		

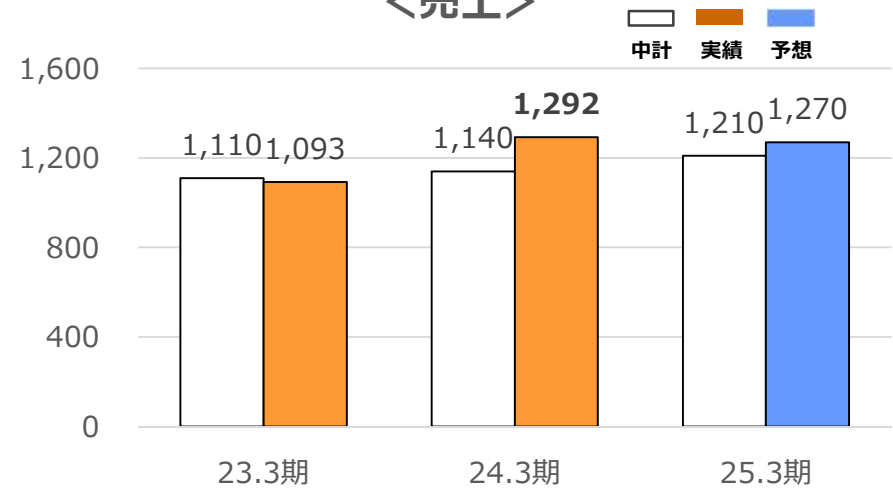


中期経営計画2022の進捗

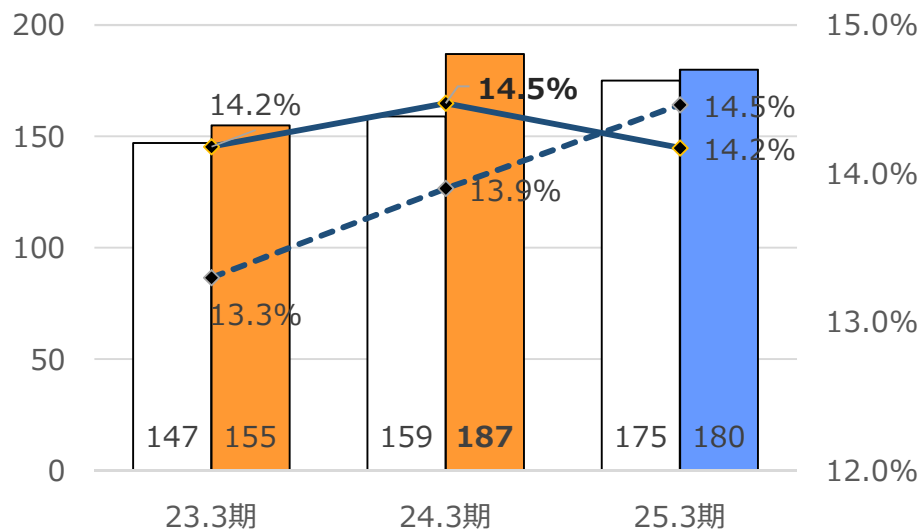
<受注>



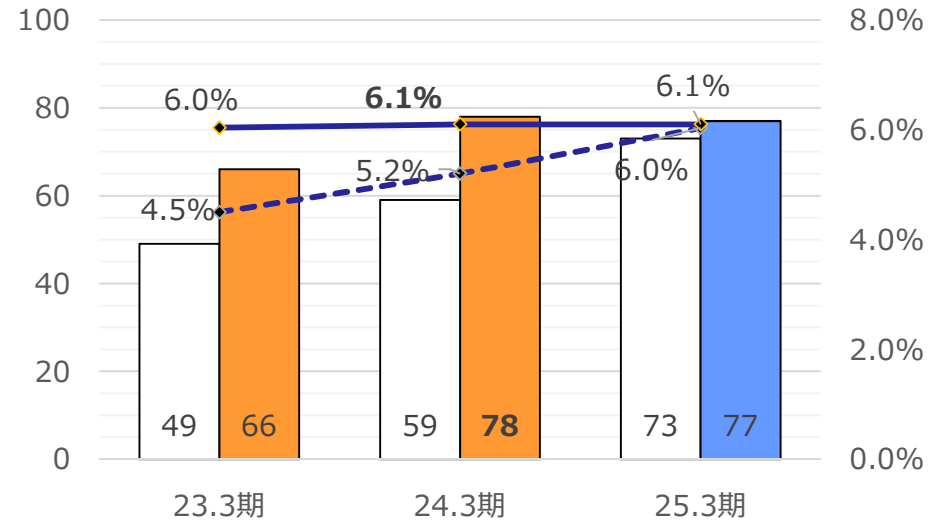
<売上>



<売上総利益>



<営業利益>



中期経営計画2022の進捗

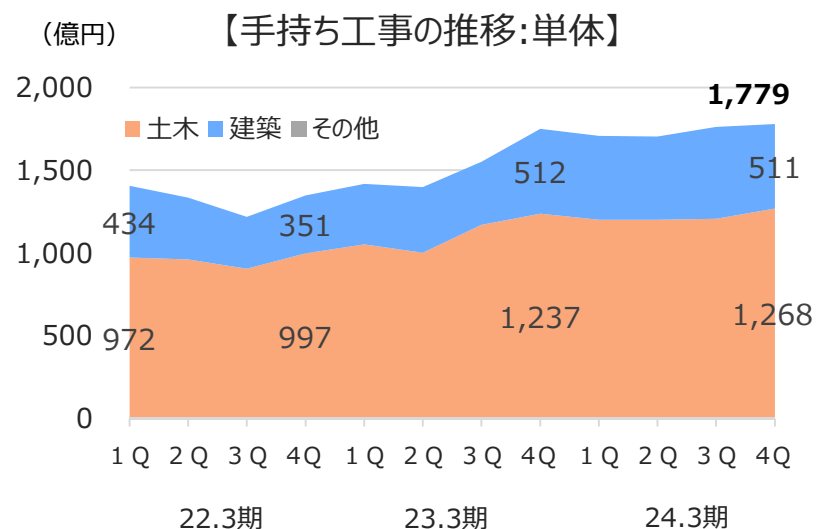
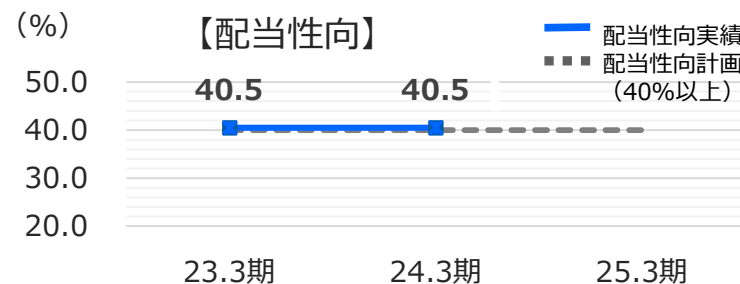
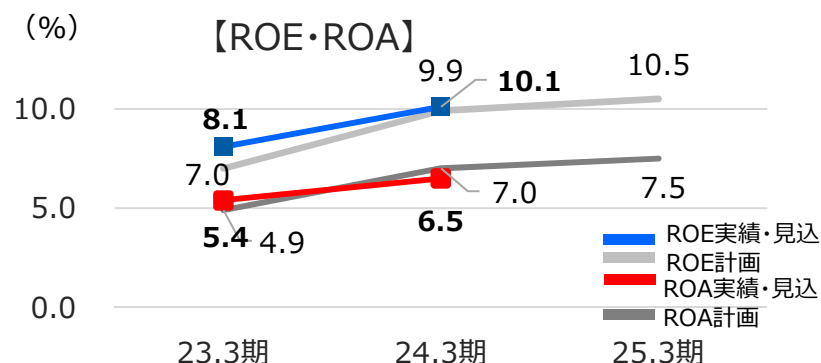
資本政策・経営指標

長期経営ビジョンの実現に向け、財務基盤や健全性を確保した上で「生産性・収益性の強化」や「成長分野の拡大」に向けた投資を行い、マルチステークホルダーにとって有益な価値を提供できる強い企業集団を目指します。

	2024年3月期計画	2024年3月期実績
資本政策	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益率 5.2% ROA 7.0% ROE 9.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益率 6.1% ROA 6.5% ROE 10.1%
財務の健全性	<ul style="list-style-type: none"> 自己資本比率 40%以上 DELシオ 0.30倍以下 	<ul style="list-style-type: none"> 自己資本比率 42.7% DELシオ 0.49倍
投資	<ul style="list-style-type: none"> 【3か年累計】 100億円 設備投資 40億円 研究開発 20億円 人財 15億円 不動産 25億円 	<ul style="list-style-type: none"> 【2か年累計】 76億円 設備投資 28億円 研究開発 14億円 人財 20億円 不動産 13億円
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向 40%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 配当性向 40.5%

手持ち工事量は1,779億円で高水準を維持

土木事業では大規模更新・修繕事業を主軸に1,268億円、建築事業についても511億円で高水準を維持しております。時間外労働の上限規制などを踏まえ、現場支援体制の強化や外注化等を積極的に行い、効率的な消化生産体制の整備やDXの更なる加速により生産性の向上に努めてまいります。



主要テーマの進捗状況

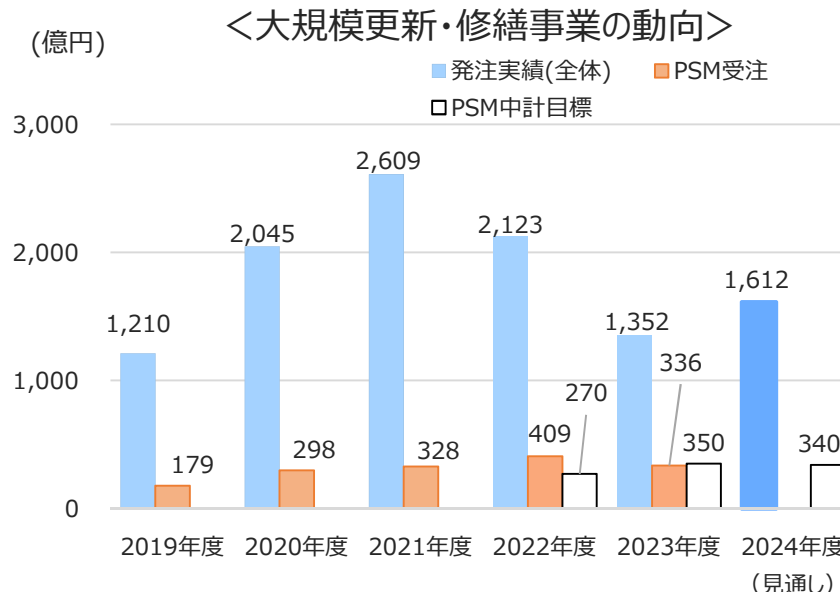
大規模更新・修繕工事を主力事業として発展・成長させる

NEXCOをはじめとする高速道路会社からの大規模更新・修繕事業は、一部で発注遅れが見られるものの、高水準の発注を維持する見込み。

- 通期の受注実績：335.9億円（新規契約：滄浪橋、桑の丸橋 継続契約：金沢高架橋東、許田高架橋北など）
- 大規模更新・修繕事業の受注は、トップシェアを維持

主な新規受注工事の概要

工事名（発注者）	工事概要
西湘バイパス 滄浪橋他1橋塩害対策工事 （NEXCO中日本）	・脱塩工法（約7,500m ² ） ・外ケーブル補強工 ・連続繊維シート補強工 他
九州自動車道 桑の丸橋他2橋床版取替工事 （NEXCO西日本）	・床版取替工（約7,000m ² ） ・塗替塗装 ・床版防水、伸縮装置工 他



施工環境に応じた床版撤去架設機の開発（金沢高架橋東床版取替工事）

- 施工環境：高圧電線の交差箇所が3箇所存在
⇒標準的な大型クレーンによる施工が不可のため、低空頭タイプ 床版撤去架設機を開発
- 実物のPCaPC床版を用いて試験施工を実施し、施工サイクル及びPC床版の運搬方法（台車や軌道構造）等を検証
- 2024年6月、実際の施工現場に適用予定



低空頭タイプ 床版撤去架設機



台車を用いたPCaPC床版の運搬



主要テーマの進捗状況

市街地でのPCaPC工法による病院建築

～（仮称）福岡中央病院建替計画～

- 福岡県福岡市中央区薬院にて地上12階建て、延べ床面積約22,500㎡（約6,800坪）、免震構造の総合病院を施工中です。
- 本建物の構造に当社が得意とするPCaPC工法を採用。免震基礎部分をはじめ、各階の床、柱に全面的にプレキャスト部材を採用しております。2025年11月の竣工を目指してまいります。



完成予想図



現在施工中の（仮称）福岡中央病院建替計画では多くのPCa部材を使用

グリーン電力の本格導入

- 当社は、中期経営計画2022において地球保全に向けた事業活動で持続可能な社会を実現するため、「THE GREEN VISION」を掲げています。
- 2023年8月より東京建築支店が管轄する建設現場において再生可能エネルギー由来のグリーン電力（以下、グリーン電力）の試験導入を進め、電力の使用によるGHG排出量の削減効果を確認しました。
- 2024年度より施工現場および事業所にグリーン電力の本格導入を開始し、GHG排出量の削減目標の達成、そしてカーボンニュートラルの実現を目指してまいります。

THE GREEN VISION

「つよさ」と「やさしさ」を兼ね備えた建設技術を追求し、人と地球が共生する持続可能な未来を実現する



主要テーマの進捗状況

カーボンニュートラルの推進と新技術開発を追求する

■ スチームレスプレキャストコンクリートの開発

コンクリート工場ではプレキャスト部材を製作する際には、コンクリート強度の発現を促進するために「蒸気養生」が行われています。この「蒸気養生」が、多くのCO₂が排出するという問題がありました。そこで、蒸気養生を行わずに所要の初期強度（プレストレス導入強度）が得られるプレキャスト部材用速硬コンクリート「スチームレスプレキャストコンクリート（SLPC）」を開発しました。

蒸気養生を無くすことで、コンクリート材料由来も含めた全CO₂排出量の12%を削減することができます。また、副次的な効果として、コンクリートの硬化が早いことにより製作時の表面仕上げ時間が短縮され生産性が向上します。2023年度岡山県で初採用されました（写真）。



SLPCを用いたPC桁

■ 超低炭素型コンクリートの開発

プレテンション方式プレキャストPC部材にも適用可能な超低炭素型コンクリート（最大でセメント材料の90%を高炉スラグに置換）を開発中です。

大規模修繕事業（メンテナンス）への取り組み

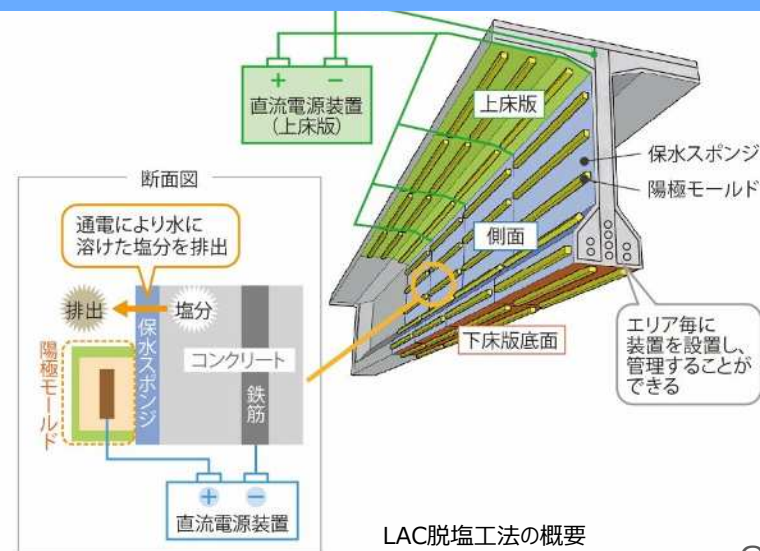
■ LAC脱塩工法※による実施工

これまでNEXCO中日本、東日本と共同で試験施工に取り組んできました。今回、NEXCO中日本発注の大規模修繕工事にて、当社独自技術の脱塩工法であるLAC脱塩工法が本格採用されました。

※LAC脱塩工法(Liner Anode Cartridge)：コンクリート構造物の表面に仮設陽極を設置し、内部の鋼材との間に直流電流を流し、コンクリート中の塩化物イオンを電気化学的に抽出し、塩害による鋼材腐食の進行を抑制する工法

■ 大規模修繕事業に向けて

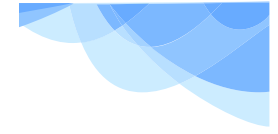
その他に大規模修繕事業に向け、PCグラウト再注入工法であるリパッシブ工法や電気防食工法（PI-Slit工法、Znカートリッジ工法）など、当社独自のメンテナンス技術開発を進めています。



LAC脱塩工法の概要

大成建設株式会社の子会社化について

- **2023年12月18日、大成建設株式会社（以下、大成建設）による当社の普通株式に対する公開買付けの結果、当社は大成建設の子会社となる。**
- 大成建設との協業関係を通じた施策及びシナジー
 - 土木事業では、PC新設橋梁工事や高速道路の大規模更新・修繕工事で、人財交流、相互の顧客情報・技術情報等の共有、専門工事業者ネットワークの活用、スケールメリットのある資材等の共同調達により、受注効率向上・施工体制拡充・収益性の向上を図る。
 - 建築事業では、大成建設の注力分野であるリニューアルをはじめとした顧客情報・技術情報等の情報共有、設計施工案件におけるPC・Pcaの積極採用やJVの設立、保有する特許・実施権の相互活用等により、ノウハウ蓄積と実績の積み重ね・営業情報量の増加・収益力の向上を図る。
 - 製造事業では、製造拠点の相互エリア補完・有効活用・工場稼働率向上により効率的な生産体制の構築・収益性向上を図る。
- 大成建設とのPMIの状況
 - 各事業本部別に、上記シナジーについて計画・実行する分科会を組織し、定例的に打合せ会を実施。スケールメリットを生かした資材等の共同調達の検討、営業案件や生産体制の情報交換、技術交流やDX、GXについての情報交換を実施※PMI（M&Aの成立後に統合効果を最大化させるために行う一連のプロセスのこと、Post-Merger Integrationの略）
- 特別委員会の設置
 - 当社と大成建設との取引において、少数株主の利益を保護するため、大成建設との利益相反リスクについて適切に監視・監督し、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を図る。



商号変更のお知らせ

当社は、2024年2月22日に「商号の変更及び定款の一部変更に関するお知らせ」のとおり、2024年6月21日開催予定の定時株主総会に、商号の変更及び定款の一部変更について付議することとなりました。

■ 商号の変更について

(1) 変更の理由

2023年12月12日付開示の「大成建設株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果並びに親会社、その他の関係会社及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり、大成建設株式会社が当社の親会社になったことに伴い、変更するものであります。

(2) 新商号（英文表記）

ピーエス・コンストラクション株式会社（PS Construction Co., Ltd.）

(3) 変更予定日

2024年7月1日※本商号変更は、2024年6月21日に開催予定の定時株主総会において、定款の一部変更が承認されることが条件となります。

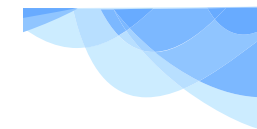
(4) 新ロゴデザイン





Appendix. 参考

会社概要・沿革



会社概要

名称	株式会社ピーエス三菱
本社	〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング18階 Tel (03)-6385-9111
設立	1952年3月1日
資本金	42億1,850万円
上場	東京証券取引所プライム
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉤物の採掘及びその請負 7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業及び倉庫業 9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉤業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合弁会社 PT.Komponindo Betonjaya（略称：PT.KOBE）社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	
2022	東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行	
2023	大成建設による株式公開買付けにより、同社が親会社へ異動	



長生橋（石川県七尾市）

1952年に完成したわが国初のPC橋。
2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。
海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。

グループネットワーク

ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



- 支店
- ・東京土木支店
 - ・東京建築支店
 - ・札幌支店
 - ・東北支店
 - ・大阪支店
 - ・名古屋支店
 - ・広島支店
 - ・九州支店
- 営業所
- ・22箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



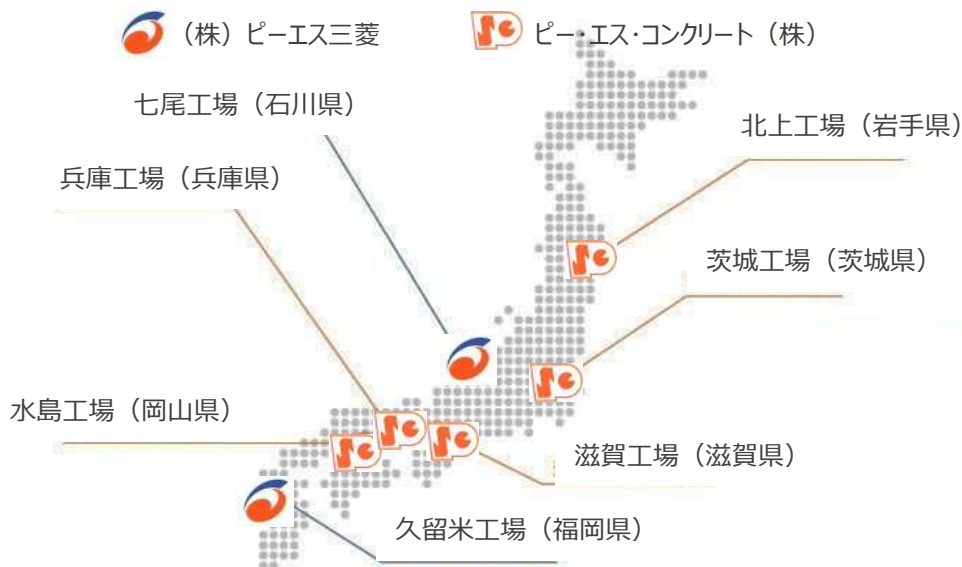
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社

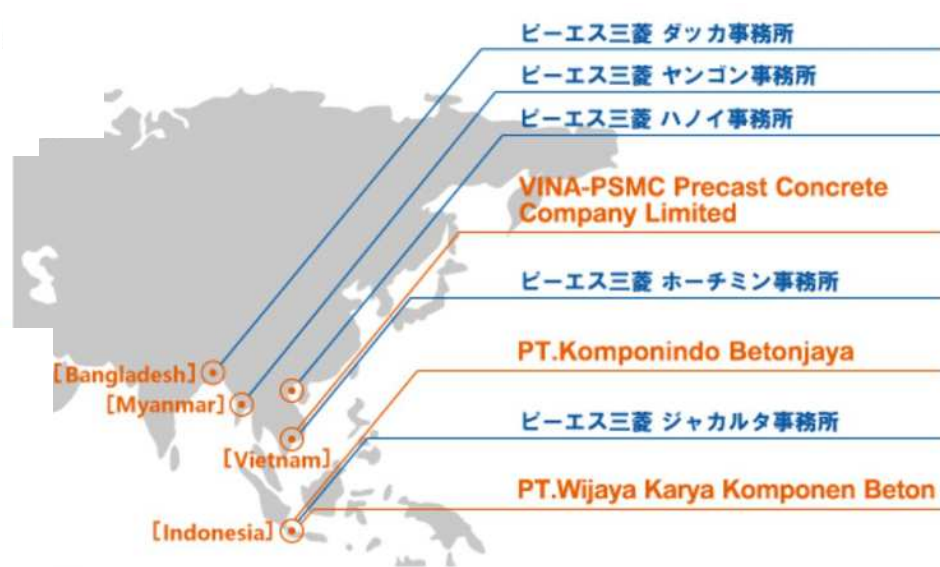


土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク





事業構成

建築建設事業

【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



桑名市津波避難施設

製造事業

- コンクリート製品の製造販売

土木建設事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開

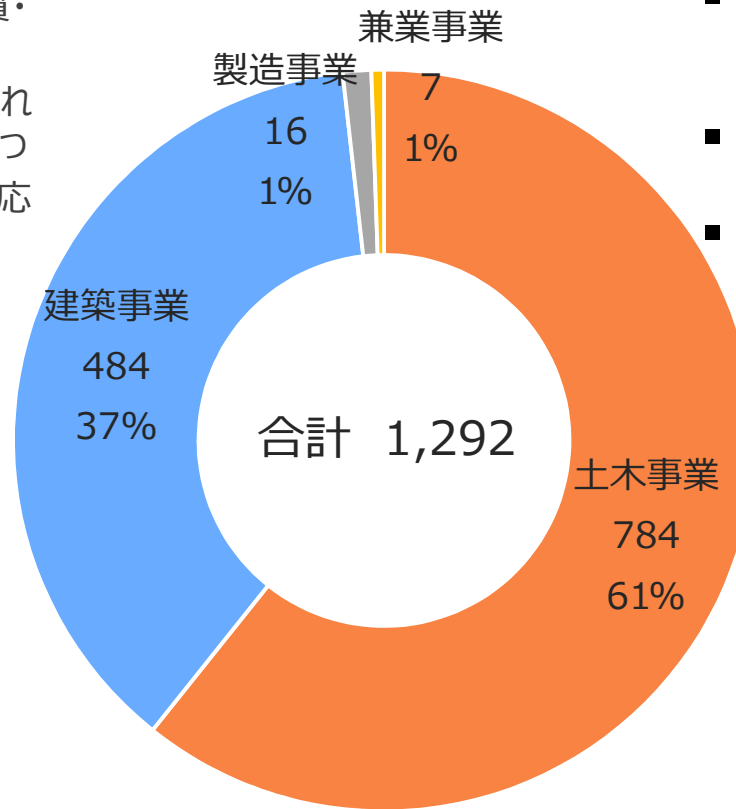


常磐自動車道大久川橋

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率
(2024.3月期 単位：億円)

プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



プレキャスト(PCa)とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます





DXに対する取り組み

全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進

- デジタル技術の活用によって、建設事業やビジネスモデルを変革
 - 生産性向上、企業の社会的責任（CSR）
- 全社横断的組織により生産性向上に向けたシステム構築を推進
- 2024年2月、PSMAXをより推進させるために新たな方針を決定



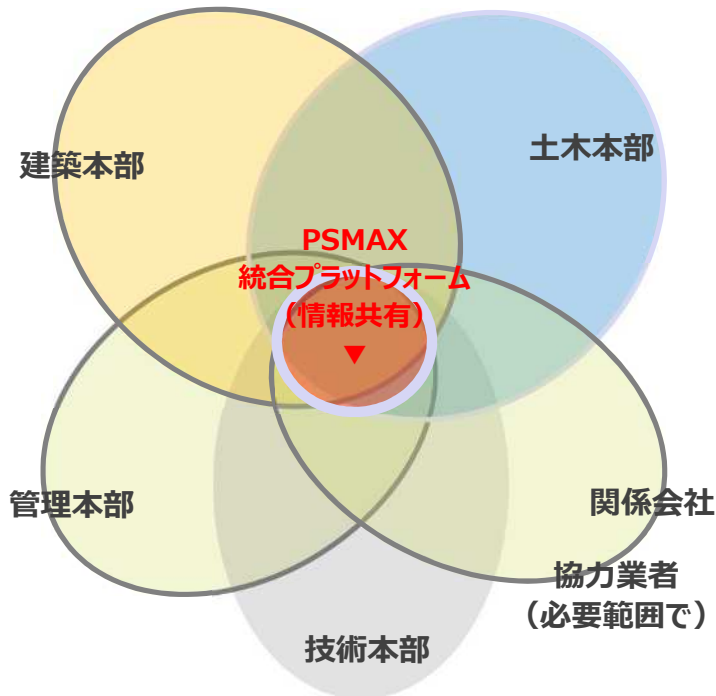
【開発方針】

ピーエス三菱 More Advanced Construction System (PSMACS)

より進化したピーエス三菱グループの建設システム

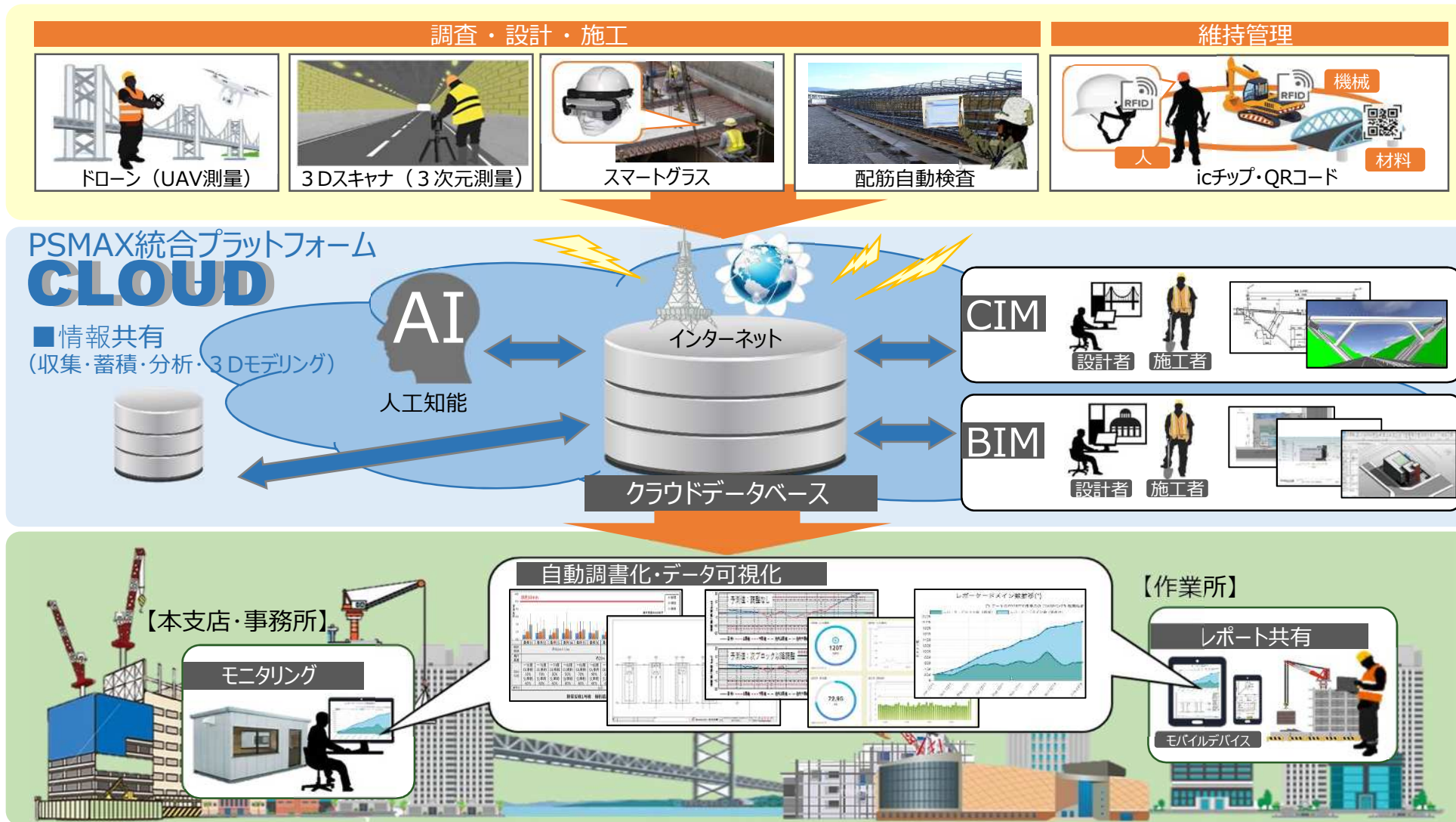
- 建設プロセスのデジタルライゼーションと自動化
- デジタル技術を活用した技術の伝承および人材育成

本ビジョンのもと、チャレンジする風土を醸成し、品質と生産性を向上させ、さらには企業価値の向上につなげる



DXに対する取り組み

PSMAX システム概要





ピーエス三菱
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ
〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-6316-2321 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp